

	<p>串木野中学校教頭通信</p> <h1>Kyo to correspondence</h1> <p>～当たり前のことを当たり前～</p>	<p>第14号 令和4年 9月21日(水)</p> <p>いちき串木野市立串木野中学校教頭 文責 長岡</p>
---	--	---

「いじめ問題を考える週間」 心について考える！

串木野中学校では9月26日(月)～30日(金)を第2回目の「いじめ問題を考える週間」と設定してあります。

各学級では道徳の授業で問題を提起していきます。ご家庭でも充分、お話をさせていただけたらと思います。また、気になる様子があれば、先生方にもぜひ相談してください。

『勉強をする』→『いじめがなくなる』『夢が叶う』

ぺこば・松陰寺の『勉強する理由』が胸に刺さる

「言葉のストックがないと…」

日本において、小学校から中学校までの9年間は子供たちに教育を受けさせる義務があります。しかし、勉強に意味を見出せない場合や、勉強そのものを苦手とする子供は、大人に対してこんな問いを投げかけることもあるでしょう。



「なぜ、勉強をしなければいけないのか」

大人になっても、子供の頃の勉強が役立っていないと感じている人は少なからずいるはずです。

もしも小学生に「勉強をする意味」を問われた時、先輩としてあなたはどうか答えますか？

ぺこば「知識は望遠鏡」

2021年3月6日放送のトーク番組『ここはぺこばと倫理です。』(NHK)では、『勉強するのは、何のためですか？』をテーマに、お笑いコンビ『ぺこば』のシュウペイさんと松陰寺太勇さんがトークを展開。

勉強をする意味について、20代の視聴者からこんな回答が寄せられました。

私が思う勉強する理由は、誰かを傷付けないためです。

言葉1つの表現を意識して変えるだけでも、傷付くリスクを少なくできると思います。自分の知らない新しい知識を教えてもらうことで、自分と異なるルーツや背景を持つ誰かの立場を想像して、思いやったり寄り添ったり配慮することができるのではないのでしょうか。

『誰も傷付けない笑い』でブレイクした、ぺこば。松陰寺さん自身、視聴者の回答に「僕らのネタにも通ずるところがあるんじゃないか」とし、こうも続けます。とっさになんか思いついたワードをパツという時に、言葉のストックがないと出てこないことってあるじゃん。勉強することによって得られる知識だから、それで優しい言葉にできるなら勉強したほうがいいよね、そういう意味では。

最後に決め台詞として「知識は望遠鏡だ。見えないところが見えてくるだろう」と語った松陰寺さん。「見えないもの」とは、20代の視聴者がいうところの、自分と異なるルーツや背景、そして相手の立場なのでしょう。

20代の視聴者の回答も含め、松陰寺さんの意見は反響を呼び「大人になってから、より一層そう感じる」と共感の声を集めています。

- ・ 素晴らしい考え方ですね。この考えを自分も頭に入れておきたい。
- ・ 言葉をたくさん知っていて、使い方がうまい人を頭がいい人っていうのかな。

相手の立場や思いを想像することは、自分自身がこれまでどんな体験をし、何を学んできたかの積み重ねがないとできません。昔得た知識に固執し新しい考えや価値観を知ろうとしないままでは、自分本位な言葉しか相手に投げかけることはできません。もしかしたら、その言葉は誰かを傷付けることもあるでしょう。

大人になるにつれ、『勉強』に対する考えがあいまいになってしまいがちです。だからこそ、この意見にハッとさせられた人は多くないでしょうか？

